坂道の「さよなら」

嘩月－ka「d/z」uki－

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
坂道の「さよなら」

【Ｎコード】
Ｎ３５００Ｊ

【作者名】
嘩月－ｋａ「ｄ／ｚ」ｕｋｉ－

【あらすじ】
－－－－－－－－－－

上り坂の君の姿　別れ告げた後ろ姿
どうして去り際にそんな哀しい顔して泣いていた
もう追い付けないと　言い訳を頭に流す

今ならば追い付けた　本当にそうなのかな
君との道はあまりにも違い過ぎるから

どれだけ手を伸ばしてあがいても　段々遠くなって　届かなくて
淋しさと焦燥感に染められる

二人一緒　ずっと一緒
繰り返し呟いた
こんな事をしたところで君は振り返りはしない

坂道の向こうの小さな君が見えなくなってゆく
視力の悪い僕だから　霞みだしていく　晴れた空に曇り雨
坂を降る僕の姿

頭に流れる褪せた筈の小さな思い出達が　走馬灯の様に速く流れる
頬を切る冷たい水滴が　静かに一筋流れる

間に合うのかな　嫌がらないでくれるのかな
この果ても無い様に思える少し長いだけの上り坂を越えられるのかな
悩む時間は無いのかな

理由も解らず走り始めた

足が痛い胸が痛い　苦しくて苦しくて止まってしまいそう
けれども止まる訳には行かなくて
今が失くなってしまいそうで
恐くて　壊れそうで
酸素切れの体も気にせず走った

上り　降る　坂道の先の君
人も気にせず叫んだ
空気の無い肺から無理矢理絞り出した
掠れた声は君に届かなくて　少しずつ届かなくて
手を伸ばして走り続けた

振り返る君の姿　もう一度大きく叫んだ

歪む景色　痛みも苦しみも何も無くて　季節外れの桜が咲いた
網膜に焼き付いた君の振り返る姿　それしか暗くて見えない
肺が潭々となる　口から溢れる

泣いてる君の声　微かに鼓膜を揺らす
少しずつ少しずつ　君を感じる
口角が緩む　体が緩む

君の「さよなら」は　今も此処で響いている

（後書き）

理由（わけ）

潭々（たんたん）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3500j/

坂道の「さよなら」

2010年12月30日05時06分発行